

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後、地域の将来を担う有望な人材となり得る生徒 ・自分自身のもつ無限の可能性を信じ、何事にもあきらめることなく、挑戦する生徒 ・人の痛みを我が痛みととらえることができる心優しい生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域に愛され、地域になくはない学校」をモットーに、山県市・岐阜市・関市・美濃市等の企業・施設・商工会・市役所等と協力した「地域連携型キャリア教育」の充実 ・「分かるまで教え、できるまで導く」を合言葉に、少人数授業やチームティーチング、義務教育段階の「学び直し」を通して、基礎学力の定着に向けたきめ細やかな指導 ・普通類型・商業類型・福祉類型・工業類型を設け、生徒一人一人が自分の興味・関心のある教科・科目を学習することを可能にする単位制の特徴を生かしたカリキュラム編成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動や企業実習・インターンシップなどの校外学習に興味をもち、地域や社会に貢献したいと願う生徒 ・進路実現に向けて、他者と協働しながら、コツコツと努力するのが好きな生徒 ・普通教科以外の学習にも興味がある生徒や、自分の将来の夢を高校生活の中で見つけたいと考えている生徒

3 評価する領域・分野	◇学習指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に関して、「学習の評価方法はテストだけでなくいろいろな面から行っている」（90%⇒86%）は、パフォーマンステストや提出物等の評価方法を生徒に確認しながら行っているため評価が高い。 ・「学校は『分かる授業』を展開し、確かな学力が身につくよう努力している」（90%⇒84%）と満足度には達しているが、更に研修に努める必要がある。 ・「一人一人の能力に応じた指導を行っている」（87%⇒79%）と評価が下がっているため、個別指導に力を入れ、多様化した生徒に対応しなければならない。 ・「ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている」（今年度から調査開始76%）では、今後も各教科で授業研修を行い、興味・関心を喚起する工夫や改善をしていく必要がある。 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇授業研究を積極的に行い、生徒の興味・関心を喚起するための授業工夫、改善を行う。 ◇個別指導に力を入れ、多様化した生徒に対応する。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、進路指導部、生徒指導部、年次会、各教科の連携・協力体制		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 類型別学校設定科目等での少人数・TT・習	(1) 生徒による授業評価【満足度80%以上】		

<p>熟度別授業の強化</p> <p>(2) タブレットやWEB会議システム等のICTを活用した授業改革</p> <p>(3) 各種検定(漢字検定、全商協会主催検定等)の受験促進</p>	<p>(2) ICTを授業に活用した教員の割合【85%】</p> <p>(3) 各種検定の合格率【昨年度以上】</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p>	<p>10 評価視点</p>	<p>11 評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の学習目標の提示により、学ぶ内容を明確にし、授業に対する意欲や関心を高めた。 ・少人数指導(T.T.、習熟度別、選択授業)を実施し、効果的な学習指導に努めた。 ・各教科において、基礎学力の定着に向けた教材開発や授業改善に取り組んだ。 ・ICT教材の研究と研修に取り組んだ。 	<p>① 学習目標の提示、内容の明確化</p> <p>② 学習に対する意欲・関心・態度</p> <p>③ 教材開発、授業改善の取組</p> <p>④ ICT授業について</p>	<p><input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p> <p>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p> <p>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p> <p>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p>
<p>12 成果・課題</p>	<p>○授業の始めに本時の学習目標を示し、生徒が学習内容を前もって理解し、見通しをもって取り組める指導が定着した。</p> <p>○1年次生は学習に対する興味・関心が全体的に高く、積極的に意見や感想を述べる雰囲気がある。また課題に取り組む時間や家庭学習時間が昨年度より少し増えている。</p> <p>▲学習実態調査から、家庭学習が0分の生徒が約50%いる状況が明らかになった。家庭での学習習慣を身につけさせる指導が必要である。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着に向け、各教科において、ICTや独自教材の開発や授業改善に継続して取り組む。 ・主体的学習態度の育成のため、学習意欲が高まる工夫と指導を行い、さらに家庭学習の習慣化を図る教材を開発する。 ・多様化した生徒に対応するため、一人一人の能力に応じた指導や個別指導に力を入れる。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月14日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での出校停止による家庭学習の取り組みについて、オンラインも含め保護者と学校が連携して学習を進めていく必要があると感じている。そんな中でも時間を見つけ、「生徒同士が勉強を教え合った」という話も聞いており、学習に対する環境づくりも大切であると感じている。 ・山県高校は地域から応援を受けている学校であるので、生徒の姿を見てもらうことが大切である。その点、中学校の掲示板やCCN(ケーブルテレビ)での広報活動は山県高校の姿を適切に伝えることができています。きめ細かな学校運営を継続し、さらに地域との連携を深めてほしい。 ・学校設定科目の効果的な選択など生徒が授業を理解し、学校で活躍できる場所があると学校生活がより充実するのではないか。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後、地域の将来を担う有望な人材となり得る生徒 ・自分自身のもつ無限の可能性を信じ、何事にもあきらめることなく、挑戦する生徒 ・人の痛みを我が痛みととらえることができる心優しい生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域に愛され、地域になくはない学校」をモットーに、山県市・岐阜市・関市・美濃市等の企業・施設・商工会 ・市役所等と協力した「地域連携型キャリア教育」の充実 ・「分かるまで教え、できるまで導く」を合言葉に、少人数授業やチームティーチング、義務教育段階の「学び直し」を通して、基礎学力の定着に向けたきめ細やかな指導 ・普通類型・商業類型・福祉類型・工業類型を設け、生徒一人一人が自分の興味・関心のある教科 ・科目を学習することを可能にする単位制の特徴を生かしたカリキュラム編成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動や企業実習・インターンシップなどの校外学習に興味をもち、地域や社会に貢献したいと願う生徒 ・進路実現に向けて、他者と協働しながら、コツコツと努力するのが好きな生徒 ・普通教科以外の学習にも興味がある生徒や、自分の将来の夢を高校生活の中で見つけたいと考えている生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーや社会規範について保護者（67％）・生徒（83％）ともに学校は指導していると感じている。 ・学校のいじめに対する指導については、保護者（60％）・生徒（83％）が厳しく対応していると感じている。 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇人権意識の深化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の多様性を認められる人権意識を育むための学校行事・LHR等の充実 ・適切な人間関係を築くための情報モラル教育の実施 		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・「SOSの出し方」教育の推進と生徒が教師に言える関係作りの構築 ・学年を中心とした担任から管理職まで一貫した情報共有・協力体制 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) カウンセリングマインドを基軸とする生徒理解と関係作り</p> <p>(2) いじめに対する迅速な対応の徹底</p>	<p>(1) 生徒が学校生活に対し、安心・安全を感じながら生活している。</p> <p>(2) いじめ行為があった際に、周りの大人に伝えるとともに、大人が迅速に対応している。</p>		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室や生徒支援室、保健室だけでなくあらゆる場で生徒の訴えや話を聴く体制をとり、生徒理解に努める。 ・学校行事やLHR等を中心に、他者理解を促す取り組みを実践する。 	<p>①生徒が充実した学校生活を日々送るとともに満足できているか。</p> <p>②生徒が困りごと等を教師に相談した際に、一人の人間とし</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	

<p>・教員だけでなく、SCやSSW、市の福祉行政管轄組織等とも協力体制をとりながら、生徒個々の課題にあたる。</p>	<p>て真摯に対応していると感じているか。 ③SNSを含む日々のコミュニケーション能力向上に資する指導を実施できたか。</p>	<p>A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>
<p>12 成果 ・ 課題</p>	<p>○生徒のアンケートで「学校生活に対する満足度」が80%を超えた。日頃の学習活動のみならず、生徒と教員間の関係も良好（年2回実施のハイパーQUの結果：「教師との関係」全国平均12.8のところ1年生15.7、2年生17.1）であることが大きい。 ○生徒・保護者のアンケート結果で、保護者（60%）・生徒（83%）が、教員がいじめに対して厳しく対応していると感じている。日頃から生徒の声を聴き、小さなことと感じても全員で情報共有しながら生徒指導を実践することができた。 ▲コミュニケーションスキルを向上させるためのSST（ソーシャルスキルトレーニング）として、通級授業「コミュニケーショントレーニング」や県が取り組む「演劇ワークショップ」、生徒を主体とした「70周年記念事業」、LHRでの「アンガーマネジメント」や「アサーショントレーニング」などを実施したことにより、少しずつではあるが生徒の意欲や自己肯定感が向上していることは確かである。一方で高校卒業後の進路を考えた時、「これ（この程度の目標で）でいいのか（社会で通用するのか）」という職員の声も少なからずあるのも事実である。山県高校の生徒指導の在り方について、今後より一層共通理解を図る努力が必要である。</p>	<p>総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案 <①手立て> 「こうしたら生徒がこんな風変わったよ」といった具体的な実践例や、教員間で本校の生徒指導の在り方について本音で建設的に語り合い実践する機会を増やし、現在行っている指導に対し、教員自身が自信と信念を持つことできるような成功事例を増やしていくための「校内事例検討会」を提案する。 <②見通し> 「働き方改革」を進める中での新たな会議を立ち上げる提案は難しいため、既存の会議（学年会・分掌会等）のなかで意見を集約したり、Forms等に入力するなどの工夫をする。 <③根拠> 生徒指導提要（改訂版）第3章1、2</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月14日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめをする生徒の背景にも目を向けて、その解決のために地域や保護者を巻き込んだダイナミックな指導をされるとよい。 ・ここ数年、地元で山県高校は「生徒を理解しようと努力する学校」と評判になっている。そのためこれまで学校に行けなかった生徒が、山県高校への入学を希望して現在学校へ行って勉強している生徒もいる。今後も生徒によりそう指導を継続してほしい。 ・最近学校周辺にゴミがなく、大変環境がよくなった。また、生徒が挨拶もしてくれるようになり気持ちが良い。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後、地域の将来を担う有望な人材となり得る生徒 ・自分自身のもつ無限の可能性を信じ、何事にもあきらめることなく、挑戦する生徒 ・人の痛みを我が痛みととらえることができる心優しい生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域に愛され、地域になくはない学校」をモットーに、山県市・岐阜市・関市・美濃市等の企業・施設・商工会 ・市役所等と協力した「地域連携型キャリア教育」の充実 ・「分かるまで教え、できるまで導く」を合言葉に、少人数授業やチームティーチング、義務教育段階の「学び直し」を通して、基礎学力の定着に向けたきめ細やかな指導 ・普通類型・商業類型・福祉類型・工業類型を設け、生徒一人一人が自分の興味・関心のある教科・科目を学習することを可能にする単位制の特徴を生かしたカリキュラム編成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動や企業実習・インターンシップなどの校外学習に興味をもち、地域や社会に貢献したいと願う生徒 ・進路実現に向けて、他者と協働しながら、コツコツと努力するのが好きな生徒 ・普通教科以外の学習にも興味がある生徒や、自分の将来の夢を高校生活の中で見つけたいと考えている生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・本校の進路指導については、保護者及び生徒から概ね肯定的な評価を得ている。特に進路情報の提供については評価が約71%である。進路希望に沿った適切なアドバイスをするということについても評価が67%である。しかし、「わからない(評価E)」との回答が進路情報の提供については約25%、適切なアドバイスは約31%と昨年度より上昇している。昨年は両項目とも約10%であった。今後も地域創生キャリアプランナー制度を活用して、企業の求める人材に対する個に応じた進路指導をすすめていきたい。1,2年生の保護者及び生徒に対する情報の提供と説明について、さらに充実させていきたい。</p>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇進路ガイダンスや進路体験学習の充実を図りキャリア発達を促す。 ◇生徒の個性に応じた進路選択ができるよう積極的な進路相談を推進する。 ◇全職員の共通理解と協力体制のもとで進路指導の充実を図る。</p>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・早期から学年や他の分掌との連携・協力のもと、全校体制で生徒の進路実現へ向かう。</p>		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) 個に応じた進路指導 (2) 進路ガイダンスの充実 (3) 進路体験学習の充実 (4) 就職・進学面接指導の充実</p>	<p>(1) 生徒の進路実現 90%以上 (2) 進路講話、ガイダンスの取組状況 生徒アンケート (3) 地元企業・施設研修の取組状況 生徒アンケート (4) 特別面接指導での取組状況 外部の意見</p>		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
(1) 個に応じた進路指導 年間を通しての補習、小論文指導、進路相談会 (2) 進路ガイダンスの充実 ① 3年進路、就職ガイダンス 7, 8月 ② 自己啓発セミナー(1・2年) 10月 ③ マネープラン講習会(1・2年) 12月 ④ 3年生進路決定体験談(1・2年) 1月 ⑤ 関市・山県市合同企業説明会(1・2年) 1月 (3) 進路体験学習 ① 地元企業・施設研修(インターシップ) 6月 ② 関市企業見学会(1・2年) 12月	① 生徒の進路実現 ② 補習、小論文指導の実施 ③ 面接指導の実施 ④ 進路ガイダンス、講話の実施	A B C D A B C D A B C D A B C D
12 成果・課題 ○ 企業求人票のデジタル公開が生徒・保護者に関覧の機会を増やせた。 ○ 就職希望者に対する面接指導では、学校全職員、外部講師、学校関係者(PTA役員、学校運営協議会委員)の協力を得て、充実した実施ができた。 ○ 1, 2年生の進路ガイダンスや進路講演会が進路意識の高まりを後押しした。 ▲ 保護者懇談時の進路相談会や補習など、生徒の参加が消極的であった。 ○ 就職・進学を受験報告書が提出され、次年度以降の参考資料として活用できる。 ▲ 早期から進路活動ができるように進路意識の向上をはかる。		総合評価 A B C D
13 来年度に向けての改善方策案 ① 進路の手引を発行し活用を推進する。 就職・進学関係の1年間の流れを共有し、見通しをもたせて生徒への指導ができるようにする。 ② 生徒の希望に沿った進路相談会、補習についてさらに充実できるように工夫する。 ③ 地元企業・施設研修がより実りある研修となるよう、2年次生と3年次生の2学年で実施する。 2年商業類型(販売)・2年福祉類型(福祉)・2年工業類型(デュアル先) ④ 各学年団と連絡を密にし、生徒の希望動向の把握に努め、地域連携型キャリア教育の充実を図る。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月14日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四類型の選択により、進路に対する意識が明確になり学習意欲等が向上しているように感じる。この素晴らしい取組をPRしてほしい。 ・ 面接指導において、生徒たちは自分の進路目標を明確にし、非常に明るい表情で自分の伝えたいことをしっかりと伝えることができている。今後は生徒自身が更に成長できるように、校外での活動も含め積極的にチャレンジしてほしい。 ・ 全体に誠実な生徒が多いという印象を受けた。自分の長所に気付いていない生徒もいるので、それらに気付けるような声掛けをしていただけると自信を持った発言ができるのではないかな。 ・ 進学・就職指導ともに個に応じた指導がなされていると感じる。今後も生徒の進路目標達成に向けた指導をお願いしたい。 ・ 地元企業で多くの卒業生が活躍している姿を見ることができ大変うれしく思う。今後も生徒の個性を理解した指導と、一人一人が自分なりの勤労観、職業観を持ち、自主的に進路を選択できるような指導をお願いしたい。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後、地域の将来を担う有望な人材となり得る生徒 ・自分自身のもつ無限の可能性を信じ、何事にもあきらめることなく、挑戦する生徒 ・人の痛みを我が痛みととらえることができる心優しい生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域に愛され、地域になくなくてはならない学校」をモットーに、山県市・岐阜市・関市・美濃市等の企業・施設・商工会 ・市役所等と協力した「地域連携型キャリア教育」の充実 ・「分かるまで教え、できるまで導く」を合言葉に、少人数授業やチームティーチング、義務教育段階の「学び直し」を通して、基礎学力の定着に向けたきめ細やかな指導 ・普通類型・商業類型・福祉類型・工業類型を設け、生徒一人一人が自分の興味・関心のある教科・科目を学習することを可能にする単位制の特徴を生かしたカリキュラム編成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動や企業実習・インターンシップなどの校外学習に興味をもち、地域や社会に貢献したいと願う生徒 ・進路実現に向けて、他者と協働しながら、コツコツと努力するのが好きな生徒 ・普通教科以外の学習にも興味がある生徒や、自分の将来の夢を高校生活の中で見つけたいと考えている生徒

3 評価する領域・分野	◇家庭・地域との連携
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・家庭との連携に関して、「学校の教育方針や指導の内容を保護者（地域）へわかりやすく伝えている」（75.2%⇒78.0%）、「ホームページ等で様々な情報を伝えている」（79.0%⇒87.0%）、「一斉配信メールサービスは有効に活用されている」（87.6%⇒91.0%）は、高い評価を継続。「学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている」（75.2%⇒75.0%）、「保護者（地域）の悩みや相談に適切に対応してくれる」（87.6%⇒66.0%）、「PTA（育友会）や部活動後援会等関係団体の徴収金について、その予算や決算、経費の執行内容を説明している」（83.8%⇒67.0%）、「教職員は各種文書や個人情報等を適切に管理している」（83.8%⇒67.0%）、「学年通信やクラス通信をとおして、主体的に進路を選択し、決定できる能力の育成を図っている」（75.2%⇒72.0%）、昨年と比較し、評価を下げている。その原因として“わからない”という回答が多く、学校の取り組みを保護者が理解していただける努力が必要である。</p> <p>・地域との連携に関しては、「地域に開かれた学校づくりの取り組み」（78.1%⇒63.0%）に減少した。こちらも“わからない”が33.0%と多く、学校の取組について理解していただけるよう努力が要である。</p> <p>・今年度からアンケート形式をformsに変更し、全員に回答を頂く形に変更したため昨年度との比較は難しい面もあるが、今後も活動の工夫を行い、内外にアピールをしたい。</p>

5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇家庭や地域との連携の強化 ◇地域行事への積極的参加 ◇地域への積極的情報発信	
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	教務部の情報担当を中心に、各分掌、各学年と連携を取り、メール配信やホームページを通じて、充実した情報発信を続けていきたい。	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8	達成度の判断・判定基準あるいは指標
	(1) 学校行事への保護者の参加 (2) 各種広報物配信、HPの充実、メール配信 (3) 地元企業、地域行事、学校間交流などによる積極的な交流		(1) アンケート、PTAの出席率、外部からの声 (2) 各種広報物の発行回数、新聞取材回数、HPの更新回数 外部からの声 (3) 校内外での活動回数 外部からの声
9	取組状況・実践内容等	10	評価視点
	(1) PTAによる挨拶運動、PATバザー、交通安全指導 (2) 広報の充実（山高だより、学年通信、中学校に訪問、広報ボード、新聞記事の校内掲示）、メール配信、HPの更新。 (3) 各類型、学年、生徒会等による外部機関との連携		①保護者、PTA役員による学校行事への参加、協力 ②学校評価の向上、HPの更新回数継続、新聞等記事数 ③積極的な連携活動を行い、アンケートや意見を頂く。
		11	評価
			A (B) C D A (B) C D (A) B C D
12	成果 ・課題	総合評価 A (B) C D	
	<p>○PTA挨拶運動では、役員の方には積極的に参加していただき、行事をスムーズに進めることができた。また、山高祭（文化祭）ではコロナ感染対策を行い「PTAランチ」としてPTAの方が参加し好評であった。</p> <p>○一斉配信メールでは自然災害対応などの緊急の連絡は、細めに配信し、普段の学校行事案内、定期考査や試験、各種検定、月間行事予定ホームページ掲載などのメールも随時配信している。ホームページの更新回数は、新規の記事掲載が約200本（昨年120本）であった。ホームページの閲覧者数は1日平均65件（昨年およそ65件/日）となった。</p> <p>○近隣の14中学校（昨年8校）に学校紹介の掲示板（広報ボード）を設置していただき、定期的に更新し学校のPRに努めた。記事のデザインを見直し、興味を持ってもらえる内容に変更した。また、学校行事や生徒の活動のごとに、新聞社やケーブルテレビに取材依頼を行い、マスメディアに生徒の活躍を取り上げていただけた。掲載件数は15件（昨年度12件、校長室前の廊下に『山高生の活躍』として掲示中）</p> <p>▲本校の活動が保護者・地域・企業・中学生等に的確に情報発信されていないこともあるため、より正確な情報を素早く継続的に発信していく必要がある。</p>		
13	来年度に向けての改善方策案		
	<p>(1) 地域行事への参加、地元企業との連携、地域の学校との交流など校外活動に積極的に出かけ、その様子をマスメディアや地域の広報誌等に記事として取り上げてもらえるよう更に働きかける。地域との連携や開かれた学校づくりの取り組みを保護者や地域に認知していただき、本校に期待を持ってもらえるよう努めていきたい。</p> <p>(2) 保護者や地域の方々に、学校へ来ていただき、学校の教育活動を理解していただける機会を多く企画する。</p> <p>(3) 地域や関係機関には、普通科単位制の4類型の教育活動も含めて、今後も様々な面で支援をお願いし、指導していただくとともに、今まで以上に生徒を積極的に地域活動に参加させ、連携を深めていきたい。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月14日

【意見・要望・評価等】

- ・山県高校は地域から応援を受けている学校であるので、生徒の姿を見てもらうことが大切である。その点、中学校の掲示板やCCN（ケーブルテレビ）での広報活動は山県高校の姿を適切に伝えることができています。きめ細かな学校運営を継続し、さらに地域との連携を深めてほしい。地域の代表として参加させていただいているが、特徴のある取り組みを知ることができた。一生懸命取り組む姿はとても素晴らしい。
- ・コロナ禍での出校停止による家庭学習の取り組みについて、オンラインも含め保護者と学校が連携して学習を進めていく必要があると感じている。